

ボク。神様に なりたい。

The Rabbit God and I

真田和史
KAZUFUMI SANADA



ウサギノ
神様
ボク

The Rabbit God and I



ボク。神様と。
The Rabbit God and I
うさぎの

Contents

第1話

003

第2話

037

第3話

073

第4話

111

第5話

145

第0話

186

あとがき

192

やっと
咲いて
くれたね！

キレイだなあーっ
ずっと楽しみに
していたよ

ゴブ。神様と マサギの

君達はちゃんと
僕の声に
応えてくれるから
嬉しいな

君達は僕の
大切な
友達だよーっ

ああ良い
マイ

暗いん
じゃああーっ!!!

ス
ス
ス



ボク。神様。 The Rabbit God and I

第1話

いいか雪雅
よく聞け
このバカ!!

いなば ゆきまさ
稲葉 雪雅

珍しく外出したかと
思えば
独り植物の世話とは
何事じゃ!?

……僕、稲葉 雪雅には

とても夕子の悪い
「ウサギ」が
憑いています

男らしく
胸を張って
堂々としろ!!

僕……
僕なりに頑張ってる……し

あ!?

いえっ何も
言ってますん

しろにし
白虹

このウサギ？は
稲葉家と僕を護る
神様なのですが

植物に逃げるとは
嘆かわしい！
そんなだから
友人がでkindのだ!!

挙げ句の果てに
人とまともに
目を合わせられぬとは
何事じゃ!?

怖いよオオオ

イライ

おまえ、このまま
一生独り孤獨に
童真のまま死を
待つしかないのう…。

ああん

ひっ酷い
よお——っ!!!

過々しさ
恐怖しか感じ
られません…

この白虹が護って
やるというのに
何が不満じゃ!?

白虹や父さんが言うには
ずーっと昔からこの土地で
一族を護つてきたぞうです

おーっ昔

しっつ白虹が怖いん
だよお——っ!!!

お陰で
稲葉一族は
地元で有数の
名家になった
とのこと……

現在



ぶつけた覚え
無いのになあ…？

ほんとうだ、
それ
痛くない？

痛くないよ

なら
良いけど。

雪雅。

奥の部屋へ
来なさい

話が有る。

…でも、その形
どこかで見たような…

いなば ただまさ あに
稲葉 正雅(兄)

えっ
…はい。



話って何だろ
父さんと2人
だけって
嫌だなあ...



気にしすぎ
じゃない？

兄さん...っ
僕何か
したかなあ

行くかい



そこに
座りなさい

稲葉 雅男(父)



...あの、
来ました...

入りなさい。



実は...
おまえにだけ
打ち明けねば
ならん話
がある。

僕に？

正雅兄さんじゃ
なくて？

そうだ

このアザが
浮き出た者の
代々引き継ぐ役目が
どういうものか

何を背負う
のか……だ。

!!
僕と同じ
アザだ



有り体に言えば
このアザは

「呪い」だ。



不幸を
呼んでしまう

……は？
呪い……？

ちよっ…父さん!
何言ってるの!?

だが安心しろ。
呪いから護って下さる
神様がこの家には
居る。

神様!!?

急に
どうしちゃったの!
全く訳が
分かりませんっ

最後まで
話を聞き
なさい。

これまで一族は
護って頂く代わりに
神様のお世話を
してきた。

その神様の
「世話役」を
おまえに任せたい。

おむかし
大昔から
護り続けて
下さっている
神様だ。

しっかりと
仕えなさい。

……っ

……っ

い…嫌だ…
言ったら…?

…この家、古いし
きつと妙な言い伝えや
仕来りが残っているん
だらうけど…

それにしたって
神とか呪いとかが
バカバカしい

残念だが…
それは無理だ。

さ…飲みなさい
これで「世話役」の
契約を神様と
交わせる

あま
甘い…

仕方無いな…
父さんに合わせて
おくかな

でんとう
伝統を生真面目に
おこな
行つなんて

かたぶつ
堅物な父さん
らしいけど



これ初めて
飲む味だね。

ジュース？

お酒にしては…

まったく。相変わらず
なよなよした
子供じやの



—…はい？

まあ
良いわ。

ワシがまもがみ
しろにししるに
白虹じやじゃ。



…えっと…
どこから入って
きたの？
この子、父ちちさんの
知り合い？

ウサギの
コスプレ？

……

ムギユ

世話役、
おおいにほけ励むが
良い。



— … あれ??

ワシはのおー
おまえが生まれた
時からず〜と
見ておつてのお

説教をして
やりとおて
仕方無かった
のじゃ〜…

その根性、
叩き直して
やるからな？

この感触は
…本物？

もちろん、契約だ。
護ってはやる
がの？

まさかそんなこと
有る訳が無い!!



言っただろう
護り神だと

と…っ父さん？
あの子何なの？



白虹、
程々に頼む。

それは雪雅
次第じゃ。



だからっ冗談は
もう止めてよっ

ん…。
良い口当たり
じゃ。



今回ののは良い
出来じゃの。
我ながら
素晴らしい

この子供…
—さ、や、

ひとくちもとすがた
一口で元の姿に
戻れるとはの。

こいつ…
人間じゃない!!